



JICAミャンマー国イネ保証種子流通促進プロジェクト “Pure CS” Project Photo Letter

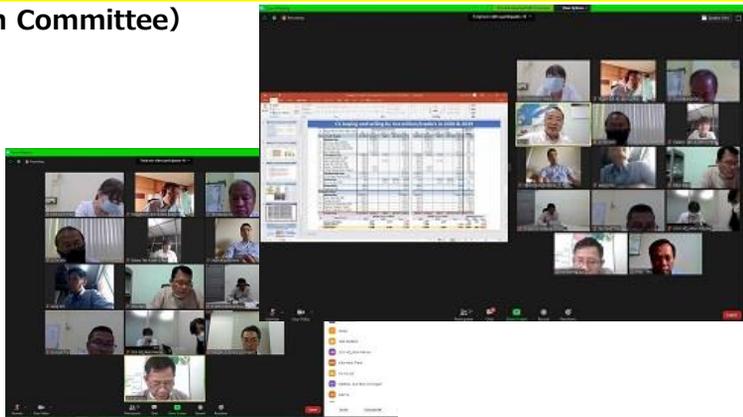
No. 23, June 2020



日本もミャンマーもすっかり雨の季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスの影響で両国とも「新しい生活様式」へ進んでいる感があります。プロジェクトでは第3回プロジェクト合同調整会議をオンラインにて開催しました。またプロジェクト専門家と現地スタッフ繋ぐオンライン定例会を毎週開催するなど、インターネットを活用しプロジェクト活動を継続しています。一方、ミャンマーでは新型コロナウイルスの社会経済に与える影響が明らかになりつつあります。農業・農村開発分野への負の影響を緩和すべく、プロジェクト活動を通じて何ができるか知恵を絞りたいと思います。

第3回プロジェクト合同調整委員会 (Joint Coordination Committee)

6月16日(火) 東京、福岡、ネピドー、ヤンゴン、パテインをZoom会議システムで繋ぎ、当プロジェクト及び農業畜産灌漑省農業局共催による、第3回プロジェクト合同調整委員会(通称JCC)を開催しました。委員会にはミャンマー側から農業局長をはじめ、農業副局長、本省種子課長、プロジェクト対象地域であるエーヤワディ地域事務所長、ザガイン事務所長など約20名、日本側から在ミャンマー日本大使館農業分野担当書記官をはじめJICAミャンマー事務所次長、担当企画調査員とプロジェクト専門家、スタッフなど約15名が参加し、COVID-19によって影響を受けたミャンマーの農業分野に対する日本の支援、昨年度の活動報告と活動の中で明らかになったイネ保証種子(CS)の生産及び流通における様々な課題への対応、今年度の活動計画などを話し合いました。未だ現地渡航、国内移動は難しい状況ですが、ICT技術を活用しプロジェクト活動を行っています。



【普及員Facebook投稿からのピックアップ】 今日現場普及員は活動を実施中！SNSのおかげで、日本にいながらも普及員と繋がり、現場活動を覗き見ることができる便利な世の中になったものです。でも逆に、早く現場に行きたい！と、はやる気持ちは抑えられません。

水稻播種準備 モウビン県ニャウンドン郡のJICA研修参加者が種子塩水選を農家に指導しています。(6/18)

種子農家研修 ヒンダダ郡ではソーシャルディスタンスをとりながら種子農家栽培研修を実施。プロジェクトの種子生産マニュアルも研修で活用され、農家へ配布されました。(6/12)

種子生産圃場での田植え エーヤワディー地域では田植えも始まっています。写真はパンタノウ郡ですが、ちゃんと並木植えで6列の栽植間隔も揃っています。グッジョブ！(6/26)



CS生産に田植機 ヒンダダ郡ではDOAのCS生産展示圃場で6条田植機が試験的に使われました。労働力不足を背景にDOAは田植機導入を前向きに検討しています。(6/27)

【ミャンマーの街角から (プロジェクト日本人が見たミャンマー)】

農業国際見本市 3月中旬にヤンゴンで開催された農業国際見本市の様子です。新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大した時期の開催だったため、出店者、来訪者とも少なめです。

エナジー満タン? 街中の雑貨店で売っていたエナジードリンクの500ml缶。500mlサイズの飲料は数多くありますが、エナジードリンクでこのサイズはなかなか珍しいのではないのでしょうか。



このフォトレターを作成している7月上旬、西日本から東日本にかけて各地で豪雨により河川の氾濫や土砂崩れなどが発生し、多くの人々が自然災害の被害に遭いました。被害に遭われた方に心からのお見舞いを申し上げますと共に、お亡くなりになった方のご冥福をお祈りします。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)